



効率アップの基礎知識 包装機器の選び方

vol.
.....
04

包装作業の種類と内容について (箱詰めカートンニング編)

箱詰めは大きく、カートン（板紙）と段ボールに分ける事ができます。両者は形態的によく似ておりますが、大きさや材質、厚みの違いから包装機はまったく異なる機械となります。

■セットアップ型

標準的で最も多く導入されています。事前にサック貼りされたスリーブを起函し、製品を封入封緘します。横型が主流で、包装能力や価格などに応じて「間欠タイプ」と「連続タイプ」に分けられます。また、被包装物を横にすることなく供給できる縦型タイプもあります。

■ラップラウンド型

～トップオープンタイプ～

サック貼りされていないblankシートから押し型に押し、トレー様式として製函します。製函した物に被包装物を供給し、その後箱に仕上げて封緘します。製函→供給→封緘の工程を別々に構成します。はじめに紹介したセットアップ型では不可能な特殊な箱や包装物にも対応可能ですが、各工程が別々であるため広いスペースが必要となります。

～突き上げタイプ～

こちらもサック貼りされていないblankシートを使用します。被包装物を包むように一気に箱にする製函方式です。被包装物を「成形型」として製函するため他の包装機に比べタイトな包装が可能です。

カートニングマシンで供給する資材には、医療品の能書や添付書類などがあり、巻き取りロール式もしくは枚葉式で供給されます。供給機構はシートホッパーから真空パットにて1枚ごと取り出す方式が一般的です。紙の厚み、カールの状態、カートンの形状などによって安定性に影響が出るため、包材の選定は慎重に行う必要があります。

